

# 10か月ごろの発達のめやす

## お父さんやお母さんから離れて、もっと外の世界を見たいという気持ちが広がります

- ・お座り前の手のはたらき・・・自分の体重を支えるもの
  - ・お座りが安定していくと・・・両手を自由に使えるように！
- はいはいやお座りの姿勢で移動したりします。

その中で、赤ちゃんはお父さんやお母さんから離れて興味が広がり、「もっといろいろな世界を見たい」という思いになります。そういった思いも、寝返りやつかまり立ちにつながります。



## 一緒に何かおなじものを見て・・・

自分の手で見つけたものと、お母さんの顔を交互に見比べたり、両手に持っているものを見比べたりします。これは、自分の目で確かめて選ぶための準備運動です。

また、「マンマンマン」などの発声が盛んになります。一緒にものを見て、**気持ちとことば**を結び付け、お子さんと共有することがとても大切です。→散歩や遊びのなかで、子どもの見つけたものを大人が「ワンワンだね」などと指さしやことばで示してあげましょう。



## まねややりとりを楽しみましょう

大人が「ちょうだい」と手を出すと、相手にものを渡すようになります。自分が頑張ったことに対して、相手が喜んでくれることに対する**期待**もできるようになります。

また、大人の触っているものを一緒に触ってみたり、簡単なことなら真似してみたり、簡単な言葉かけ（ちょうだい、ばいばいなど）に反応できるようになります。

人とのやりとりを楽しんだり、大人のまねをすることが、ことばを育てる根っこになります。

→毎日の生活のなかで、少しの時間でも構わないので、目を合わせて楽しくスキンシップしましょう。

たとえば・・・ちょちちょちあわわ（両手を2回合わせてから手を口に）、ばんざーい、ありがとうと頭を下げる、いないいないばあ など



## イタズラに見える行動も、遊びのひとつ

ティッシュを箱から一枚一枚出したり、引き出しをひっくり返したり・・・大人から見ると、イタズラに見える行動がでてきます。

この時期の赤ちゃんは、積木を触ったり、口に持って行ってなめて確かめたり、積木を床や机に打ち付ける、積木どうしを打ち合わせたりして遊びます。

そして、モノとモノとの関係に気づき、そのうち器に入れたり、出したりできるようになります。

次々と中身を取り出す遊びをするのもひとつ。

自分が手で動かすと動きが生まれることがうれしいのです。

→なんでも口にもっていく時期です。鍵や財布、携帯電話など大人にとって大切な物や口に入れて危険な物は手の届かないところに置くなど、ご家庭で話し合ってみましょう。



10か月児健診では、積木で遊びながら、赤ちゃんが今、どんなふうに物に興味を示し、どんなふうに物を扱うのかな？他者とどんなふうに関わるのかな？自分が見つけた物を相手に伝えようとするのかな？ということと一緒に確認していきましょう。

乳幼児期（0歳～小学校就学まで）の発達は、個人差がとても大きいです。一つのことのできないからといって焦らないでください。健診では、積木などのおもちゃを使って遊びながら、お子さんの全体的な発達について、お家の方と一緒に確認していきます。心配なことがあれば、いつでもご相談くださいね。